

プロジェクトの2012年度取り組みレポート

より詳しい情報が掲載されています。「コスモ石油エコカード基金」のホームページをぜひご覧ください。 <http://www.cosmo-oil.co.jp/kankyo/>

1-1
パプアニューギニア：熱帯雨林保全

エコカード会員×2人の支援
(寄付金500円/人)で、
村の女性1人が保健衛生講習を
1回受けることができました。

パプアニューギニアで、安定した食糧自給や現金収入のために農業・畜産業の技術指導を14人に実施しました。養鶏を指導して住民が作った鶏舎では、約150羽のヒナが育っています。その他、養豚・養魚なども行っています。また、熱帯雨林資源を活用し収入源を得るために、新たにランの栽培もはじめました。2012年度は村の土地登記や、村民教育用の口座へ個人や村の収入の一部を積み立てはじめるなど、村民の自立意識を向上させる出来事もありました。

1-2
ソロモン：熱帯雨林保全

エコカード会員×1,164人の支援
(寄付金500円/人)で、
研修生1人が日本で農業研修を
受けることができました。

ソロモン諸島にて、安定した食糧自給や現金収入の確保のために、定置型有機農業の技術指導と普及に取り組んでいます。2012年度の研修は、通常の農業訓練に加え、専門家のもとでブタの放牧やコンポストづくりも行いました。生産物を加工・販売するアンテナショップの設置やジャムの試作など、現金収入につながるさまざまな取り組みも行っています。また、現地スタッフ2人が日本で農業研修を受けました。

2
中国：シルクロード緑化

エコカード会員×1人の支援
(寄付金500円/人)で、
24本のサジーの
植林ができました。

シルクロードの地、中国の黄土高原では急速に沙漠化が進んでいます。そこで、経済的な価値があり現地の気候に合う植物、サジー(サジー)の苗基地を作り、地元の農民に苗を供給しています。2012年度は甘粛省蘭州市でも活動を始め、67ヘクタールの土地に16万本ものサジーの植林ができました。また、陝西省榆林市では、15ヘクタールの土地に4万5,000本を植林しました。活着率は80%と高く、植林後の生長も順調です。

3-1
キリバス：南太平洋諸国支援

エコカード会員×1人の支援
(寄付金500円/人)で、
マングロープを2本、
植えることができました。

南太平洋にあるキリバスは海抜が低く、海水面の上昇や波による土地の浸食が起こっています。そこで、海岸の浸食を防ぐためのマングロープ植林を、地元若者や子どもたちとともに進めています。開始から10年が経過し、地元では若者を中心に自主的な植林活動が広がっています。2012年度は、目標本数を大きく上回る8,322本のマングロープの種子を植え、キリバス共和国アナ・トン大統領からも高い評価をいただきました。

3-2
ツバル：南太平洋諸国支援

エコカード会員×100人の支援
(寄付金500円/人)で、
3島でゴミ問題の啓発活動
を行うことができました。

南太平洋のツバルでは海岸の浸食を防ぐマングロープ植林と、ゴミ問題の啓発活動を行っています。2012年度は首都のフナフチ環礁とヌクフェタウ環礁で5,300本の植林を行いました。地元青年団から植林協働の申し出があるなど、この活動が住民により自主的に広がっていくことが感じられます。また、子ども向けのごみ処理教育用ボードゲームは、配布済みの小学校高学年用の英語版に加え、低学年用のツバル語版も作成し配布しました。

4
中国：秦嶺(シンレイ)山脈 森林・生態系回復

エコカード会員×1人の支援
(寄付金500円/人)で、
6.7本の苗木の
植林ができました。

絶滅危惧種のキンシコウやジャイアントパンダなど、希少動物の宝庫であるシンレイ山脈において、動物の移動を妨げる使われなくなった林道へ植林することで、森の生物多様性を取り戻すことが目標です。2012年度は16kmの道路に12,500本を植林しました。活着率は約81%と高く、順調に緑化が進んでいます。大学などでの環境講座や、キンシコウの生態についての研究の支援も継続しています。地元のメディアに2回取り上げられるなど、注目も高まっています。

5
中国：内モンゴル緑化

エコカード会員×10人の支援
(寄付金500円/人)で、
1人の小学生が環境教育を
受けることができました。

沙漠化が進む中国の内モンゴル自治区に、経済的価値の高い沙棘(サジー)を植林し、現地の小中学生に環境教育を実施しています。2012年度は黄砂竜巻の影響で苗基地の移設を余儀なくされましたが、現地住民やツアー参加者により新たな苗基地に25万本の沙棘の挿し木ができました。また、活着率を高めるために、苗木の植林・育成方法を見直しました。小中学生への環境教育は、学校側との信頼関係ができ、スムーズに進められるようになりました。

6
タイ：北タイ山岳地帯 共有林地図作成

エコカード会員×1,240人の支援
(寄付金500円/人)で、
1つの村の地図を
作成できました。

国有化された森を共有林として申請するために必要な「地図」と、「村の百科事典」を作成して、村人が森を利用した持続可能な暮らしを実現することが目的です。2012年度は5つの村で地図を作成しました。行政区全体を意識した地図作りや、鳥や魚を基準にして地域の自然の状態を調べるなど内容をより向上させました。この活動のプロジェクトパートナーであるNPO法人「Link・森と人とをつなぐ会」はタイで財団化され、自治体との協働が決まるなど、今後の活動の発展が期待されます。



子どもたちもブロッコリー栽培を手伝います

熊本県の農家で栽培から販売までの一連の作業を体験しました

甘粛省蘭州市の苗基地

アラトコトコ小学校の子どもたちによる植林

子ども向けのごみ処理教育用ボードゲーム「Go-Meele(ゴーミー)」を囲んで

表情豊かなキンシコウ

新しい苗基地にはスプリンクラーがあります

ノンパカー村で「村の百科事典」の完成式

7
日本：さとやま学校

エコカード会員×46人の支援
(寄付金500円/人)で、
小学生1人が環境教育を
受けることができました。

長野県飯綱町の耕作放棄地を活用して雑穀栽培などを通じた「里山」の保全・再生と、都市部の小学生に環境プログラムを実施して次世代を担う人材を育成することが目的です。2012年度の環境プログラムでは、農家の方を招いての授業や日本の農業問題・世界の環境問題を学ぶ授業のほか、ソロモン諸島の環境問題や文化を学ぶ授業も行いました。栽培した雑穀を都市部のイベントで販売したほか、農作業体験ツアーなども引き続き行っており、農村と都市部の交流を深めています。

8
日本：野口健 環境学校

エコカード会員×203人の支援
(寄付金500円/人)で、
「環境メッセンジャー」1人が
誕生しました。

自分から環境に対して働きかけ、多くの人にメッセージを発信できる「環境メッセンジャー」の育成を目的に、アルピニストの野口健さんを校長とした「環境学校」を開催しています。2012年度は宮城県石巻市で開催し、18人が参加しました。漁業体験などとともに、がれきの残る石巻を見て、多くのことを感じました。また10周年として、2013年3月20日に記念シンポジウムを開催。過去に環境学校に参加した環境メッセンジャーが集まり、これまでにやってきたことを発表し合いました。

9
日本：種まき塾

エコカード会員×1人の支援
(寄付金500円/人)で、
2本の苗木を
供給できました。

樹木の種や実生(種から発芽したばかりの木)を集めて生長させ、北海道内で植林する団体に苗木を提供しています。地域にもともとある樹種を植えることが、本来の植生回復につながると考え、赤エゾマツやミズナラなどを育成しています。2012年度は8,030本の苗木を提供しました。育苗や種まき体験には延べ570人が参加しました。苗畑に種をまき、体験参加者の心にもエコの種をまくということで、キャッチフレーズは「ココロと大地に未来のタネを蒔く」です。

10
日本：どんぐりの森 里山再生

エコカード会員×5人の支援
(寄付金500円/人)で、
2本の植林ができました。

山火事跡から里山の復興をめざすプロジェクトです。2011年に続いて、6月にどんぐりがなるコナラを約3,100本、ヤマモミジを約100本など3,560本を、1ヘクタールの里山に植林しました。8月には炎天下での草刈りも実施。さらに生物多様性調査を通年で行っています。夏には信州大学の協力のもと、地元子どもたちと昼は昆虫採集をし、夜はライトトラップに集まる昆虫を観察しました。トンボやチョウをはじめ、多くの昆虫を発見することができました。

11
日本：ピオトープ浮島 水辺の生態系回復

エコカード会員×18人の支援
(寄付金500円/人)で、
1人がピオトープ浮島作成を
体験できました。

間伐材や竹材、炭などで作った浮島には植物が茂り、生きものが集まります。炭(と炭にすみつく微生物の働き)で水質が浄化されて水生生物も増え、生物多様性が豊かになることが期待されます。2012年度は3カ所で計4回実施し、そのうち2回がエコカード会員向けエコツアアでした。香川県の国営讃岐まんのう公園「水鳥池」で1回、東京都上野恩賜公園「不忍池」で2回、埼玉県久喜市の権現堂調整池「行幸湖」で1回、各回それぞれ子どもや学生を含む50~250人ほどが参加し、浮島を作りました。

12
日本、南太平洋諸国・南太平洋諸国生態系保全

エコカード会員×147人の支援
(寄付金500円/人)で、
1人が研究会に
参加できました。

2012年度は、活動をより活発化するため、全体会合のほかに、東京・関西でそれぞれ7回の研究会を開催し、また合宿での研究も実施しました。現地調査は、2012年11月にはソロモン諸島とパプアニューギニアで、2013年2月にはフィジーとパプアニューギニアで実施しました。現地のさまざまな施設・場所を訪問し、多くの専門家からの聞き取り調査もできました。そして、これらの情報をまとめる合宿研究会も3月に高知県で実施しています。

13
日本：ムササビとともに暮らす 里山再生

エコカード会員×76人の支援
(寄付金500円/人)で、
ムササビの観察入山調査が
1回できました。

富士山の北東でムササビと人が共生する森をつくるプロジェクトです。2012年度は、森林整備を行うフィールドの野生生物調査を132回実施しました。多くの生きものを確認し、ムササビの行動ルートもわかりました。また、森の発達を促進させるため、0.2ヘクタールの森林を整備。間伐を行いました。秋に2回開催したエコツアアでは、5mもの大きさのブナやオニグルミを植えました。今後も、ムササビがすみやすい空間を作りつつ、将来的にえさとなる広葉樹や照葉樹を植えていきます。

14
日本：東日本大震災復興支援 森は海の恋人

エコカード会員×79人の支援
(寄付金500円/人)で、
1人がサマースクールに
参加できました。

東日本大震災で子どもたちの遊ぶ場所が少なくなり、自然離れが進んでいます。自然と人、人と人のつながりを感じ、心を解放することで、生きる喜びを感じられると考えています。7月・8月にかけて3回開催した、2泊3日の子どもサマースクールには、計約40人の子どもたちが集まりました。里海体験では、がれきが撤去された浜で海水浴や釣りをして、牡蠣養殖を見学しました。里山体験では、川遊びやツリークライミングで全身を動かして、川で捕まえた鮎などについて学びました。